

「大阪の観光戦略（素案）」に対するご意見等の概要と大阪府・大阪市の考え方について

「大阪の観光戦略（素案）」に対する府民・市民意見等を募集した結果、5名の方から6件（うち意見の公表を望まないもの1件）のご意見等が寄せられました。寄せられたご意見等の概要、ご意見等に対する大阪府・大阪市の考え方は下記のとおりです。

（同種のご意見内容についてはまとめて記載しております。）

項目	意見等の概要	大阪府・大阪市の考え方
第1 策定の背景、 策定の趣旨	○ 策定の趣旨をもっと簡潔にすべき。また、大阪観光局の設立目的が、MICEなのか企業誘致なのか観光客を増やすことなのかかわかりにくいので、観光客を集めることに焦点をあてるべき。	○ 大阪を訪問する観光客を増やすことは、地域経済の活性化や雇用機会の拡大などにつながり、観光客の滞在魅力を向上させる取組みや観光客との交流などを通じて、豊かな都市環境づくりや住民生活の質的向上が進んでいくと考えております。このため、本戦略では「関西の観光インバウンド拠点・大阪」をねらいとすることを明記しております。 その中心となるのが大阪観光局であり、大阪の総力を結集した観光振興のエンジンとして、民間事業者の活動や投資をどんどん引き出してほしいと考えています。
第3 計画期間 数値目標 消費効果	○ 数値目標として掲げている、「2020年に来阪外国人旅行者650万人」の算出根拠を示すべき。	○ 国においては、観光を成長戦略の一つの柱とし、経済活性化と雇用機会の拡大等を図るため、急速に経済成長するアジアの観光需要を取り込むこととしており、訪日外国人旅行者数を2020年に2,500万人とする目標数値を設定しています。 こうした動きや訪日旅行者の大阪への訪問率を踏まえ、平成22年度に大阪府が策定した「大阪の成長戦略」において、来阪外国人旅行者を2020年に650万人とする目標を設定しました。 観光戦略の目標については、「大阪の成長戦略」に掲げた目標を踏襲するとともに、ステップアップのための中間目標として2016年に450万人という目標を設定したものです。

項目	意見等の概要	大阪府・大阪市の考え方
第4 戦略のねらい	○ 「観光インバウンド拠点」という用語はわかりにくい。	○ 大阪には空港、交通網、宿泊施設など、観光に必要な都市基盤が整っており、京都や奈良、兵庫など関西には豊富な観光資源が集積し、各地へのアクセスも非常に便利であることから、大阪が「海外からの観光客（インバウンド）にとって、関西の観光を楽しむための拠点」となることをめざしております。 これらの意味を含めて、“関西の観光インバウンド拠点「大阪」”と表現しております。
第5 戦略の構成	○ 重点エリアに記載がないので、キタやミナミ、USJ など大阪を代表する既存観光地が戦略上対象外のように誤解を招く。また、観光局における施策展開時には、「商店街観光」を大阪の特徴的な観光コンテンツとして活用すべき。	○ 重点エリアについては、大阪府市統合本部において公園などを核として、今後、都市魅力創造・集客強化に向けた取り組みを行っていく方向性を確認したエリアを記載しているものです。なお、キタやミナミなどについては、これまでも先進的な取り組みにより、既にインバウンド観光を牽引しているエリアであると同時に、今後も大阪の観光集客に欠かすことのできないエリアであると考えています。あわせて、個性的な大阪の商店街は大阪の代表的な観光コンテンツと認識しており、今後とも、官民一体となって観光集客を促進してまいります。
第6 観光振興のメインアクション	○ 大阪への観光客増加に資する集客イベントなどの民主体の活動に対して、行政としては、公園などの積極的活用や利用制限の緩和、交通インフラの整備などを通じて協力してほしい。	○ 自主性・創造性あられる民間事業者の活力がフルに発揮されるよう、事業者間の連携支援や情報発信、規制緩和などで民間事業者の取り組みをサポートしながら、オール大阪で観光集客に取り組んでまいります。